

## 安達太良山の火山活動解説資料（令和元年7月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①⑤）  
監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。
- ・地震や微動の発生状況（図2-②～④⑥）  
火山性地震は少ない状態で経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。
- ・地殻変動の状況（図3、図5）  
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

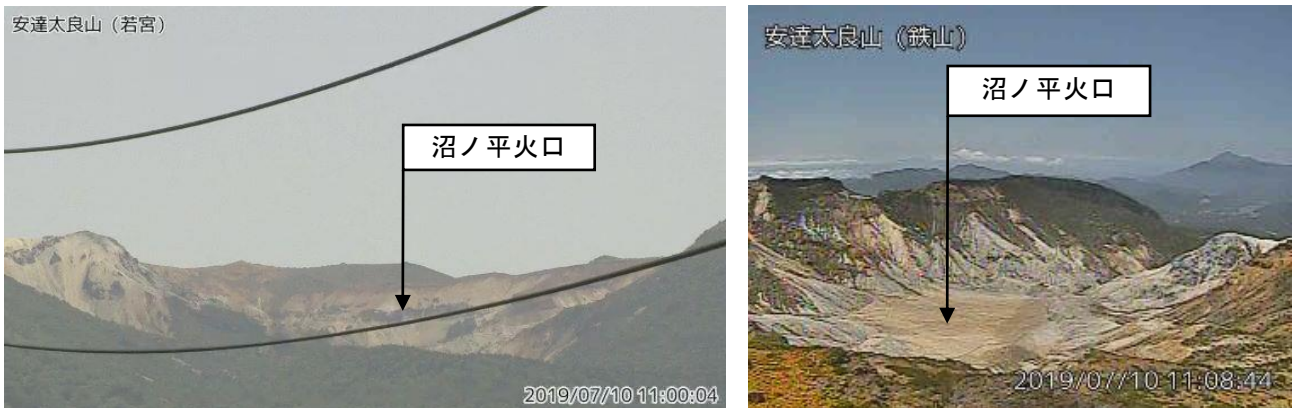


図1 安達太良山 沼ノ平火口周辺の状況（7月10日）

- ・左図：若宮監視カメラ（沼ノ平火口の西北西約8km）の映像です。
- ・右図：鉄山監視カメラ（沼ノ平火口の北東約700m）の映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年8月分）は令和元年9月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

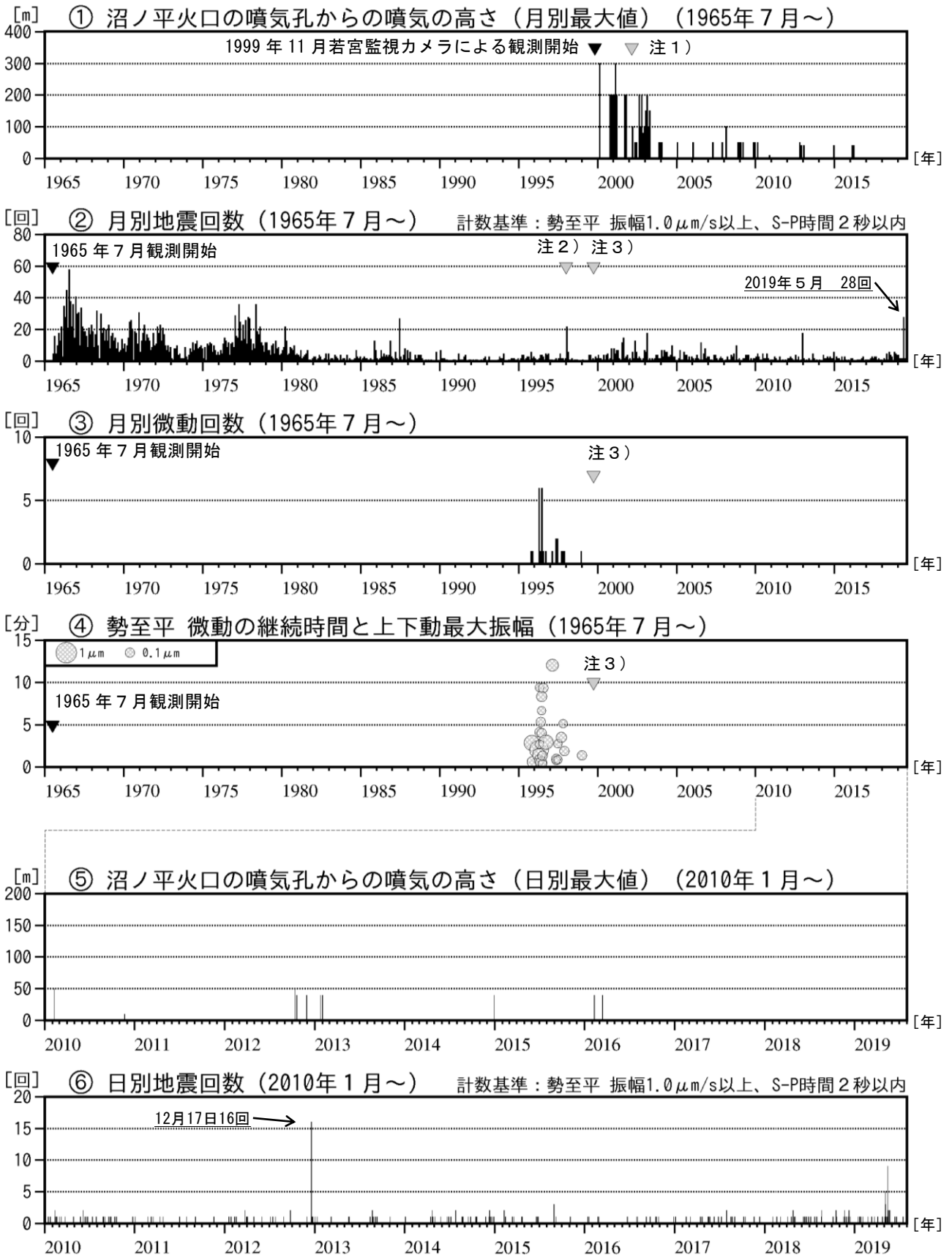


図2 安達太良山 火山活動経過図（1965年7月～2019年7月）

注1）2002年2月以前は定時（09時、15時）及び随時観測による高さ、2002年3月以降は24時間観測による高さです。

・地震及び微動の計数基準と計数基準観測点の変更は次のとおりです。

観測開始 1965年7月～ 塩沢観測点（沼ノ平火口から東北東約6km）

注2） 1998年1月～ 地震の計数基準をS-P時間5秒以内からS-P時間2秒以内に変更

注3） 1999年10月～ 勢至平観測点（沼ノ平火口から東北東約3km）

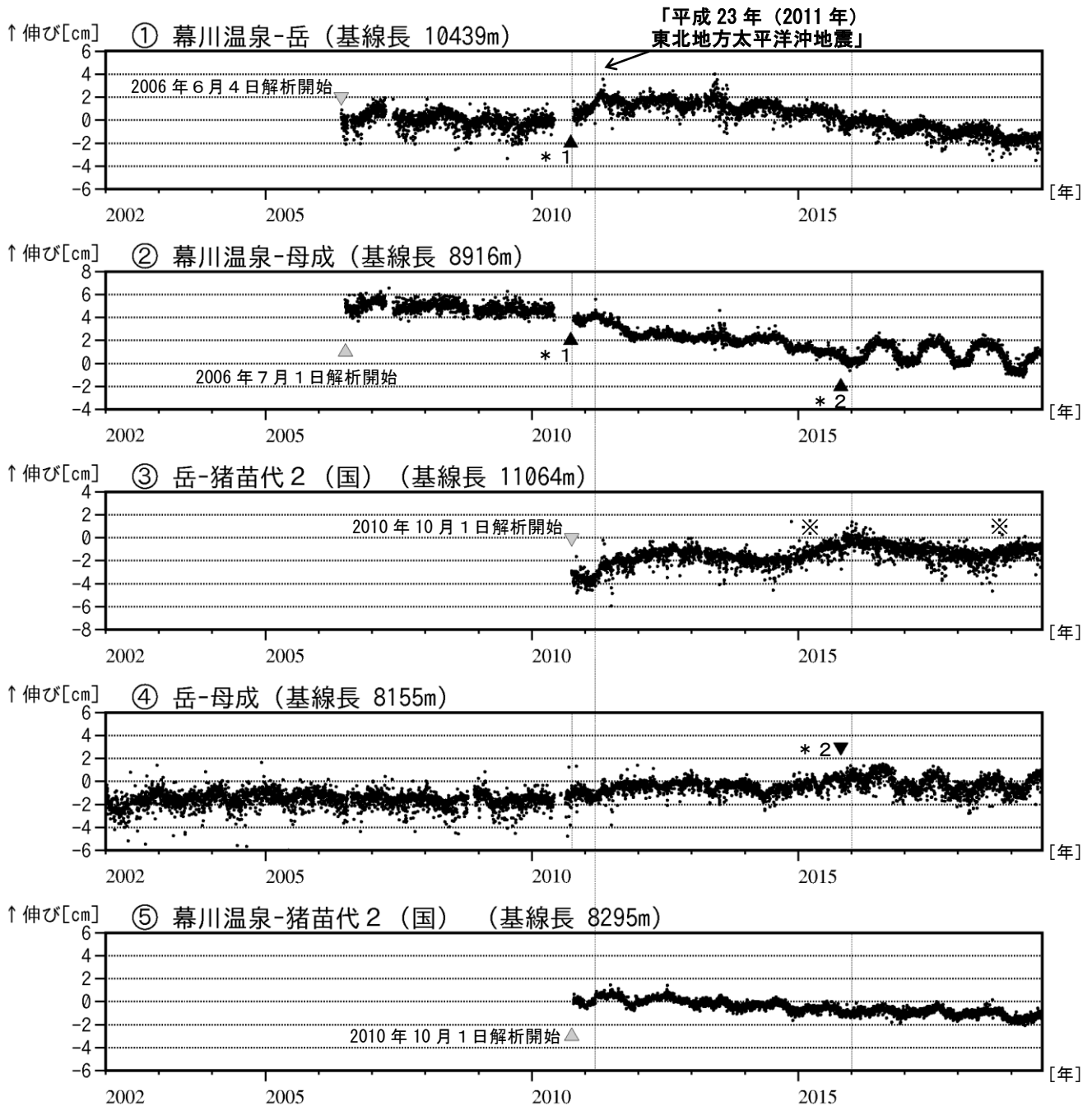


図3 安達太良山 GNSS 基線長変化図（2002年1月～2019年7月）

- ・ 2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。
  - ・ 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
  - ・ ①～⑤は図5のGNSS基線①～⑤に対応しています。
  - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
  - ・ （国）は国土地理院の観測点を示します。
- \* 1：幕川温泉観測点の機器更新を行いました。 \* 2：母成観測点の機器更新及び移設を行いました。
- ※吾妻山の地殻変動に伴う変化がみえていた可能性があります。

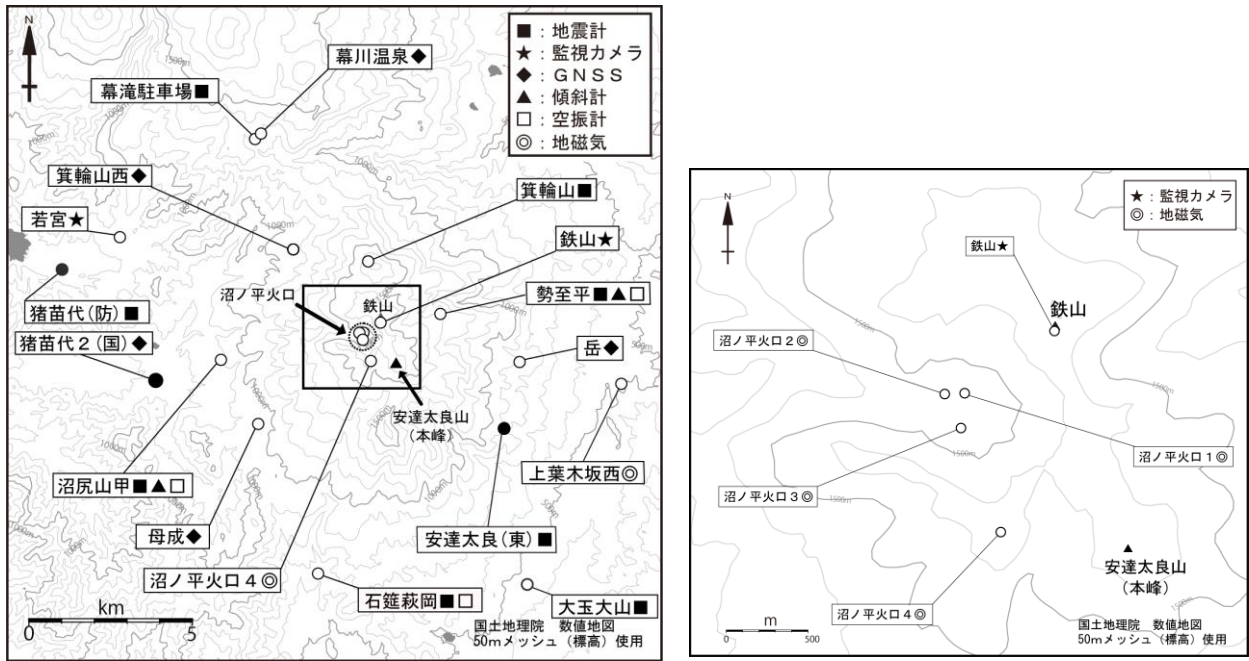


図4 安達太良山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。左図の四角囲みは右図の表示範囲を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

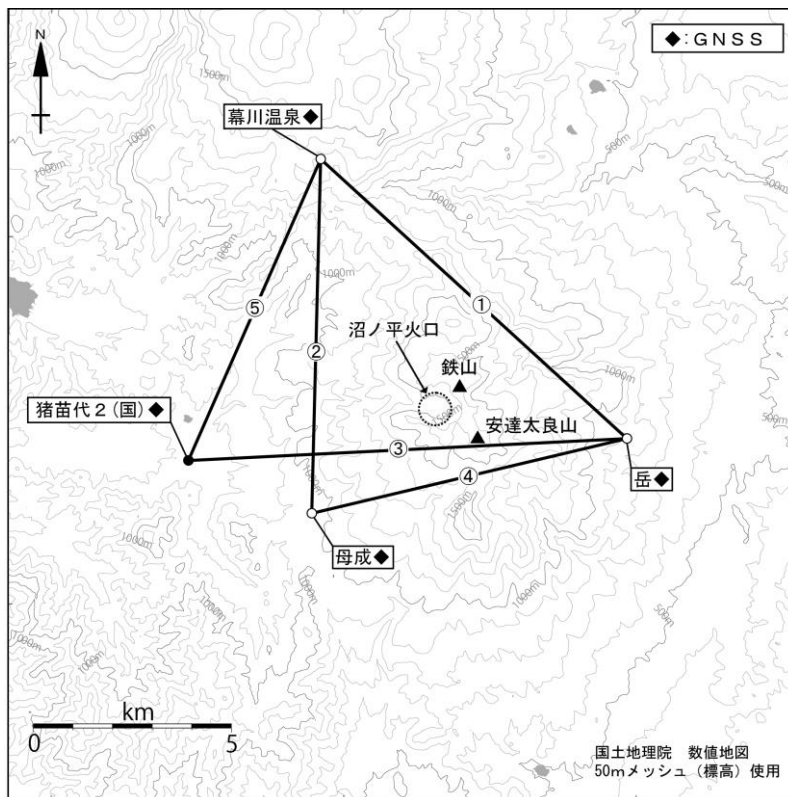


図5 安達太良山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院